

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「まごころ 家族のように」の理念を掲げ、ホームが地域に参加する必要性について施設長より日常的に伝えられている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎月のユニット会議の場で確認を行い、理念の共有、実現に向けて取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホーム便りの発行や日常的な地域とのつながり、見学会の受け入れを通じて理解いただけるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>挨拶等、良好な関係作りに取り組んでいる。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>できるだけ町内の行事、イベントには参加している。町内会の行事のお誘いを受けることもあり、交流に努めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域へ、事業所の力を活かした取り組みや知識・技術の還元はできていない。</p>	○	<p>ホームの持つ力、地域での役立て方等、地域貢献についての話し合いの場を持ちたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	会議の場で必要性や意義についての理解を深めている。又、評価後に検討を行い、改善に努めている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議については現在、施設長が準備中である。	○	運営推進会議の早急の開催と、会議での意見を活かすことができるような体制作りが必要である。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設長を中心に町との関わりは十分に持たれているが、よりサービスの質の向上につながるよう取り組みが必要である。	○	町から具体的にホームの運営に関する意見を頂く等の取り組みを検討する。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	これまでに必要となったケースは無く、学習の機会も持っていない。	○	権利擁護に関する制度について研修などで学ぶ機会を持ち、活用する方法について話し合う場を設けたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について会議の場で話し合われた経緯があり、十分に配慮されている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設長、管理者が十分に配慮し行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常の中で入居者との信頼関係を築き、話しやすいように努め、どんな小さなことでも改善できるよう配慮しているが、意見を引き出すための工夫は不十分である。</p>	○	<p>どのように入居者の意見を引き出していか検討が必要である。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月、写真入のお手紙、通院記録、預かり金出納帳を送付し、状況をお伝えしている。又、面会時等日常的に会話や、必要時には電話連絡等で詳しい状況をお知らせしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置等、いつでも声をかけて頂けるよう努めているが、ご家族の意見を引き出すための具体的な機会は設けることはできていない。</p>	○	<p>ご家族の意見をどのように引き出していか、家族会の設置も含めて検討して行きたい。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の全体会議や、ユニット会議を意見収集、検討の場としている。特にユニット会議はユニットの全スタッフが参加できるようシフトを組み、意見の集約がしやすいよう配慮されている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要に応じて臨機応変に対応できている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>スタッフや、運営上の都合でのスタッフの異動があり、入居者に対する配慮としては不十分な感はあるが、日常的にユニット間の行き来や関わりは多く、ダメージは少ない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部、外部の研修への参加を推奨しており、スタッフの育成に努めている。また、主任、副主任を教育担当とし、スタッフの効果的な育成に配慮している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町内の他のグループホームとの密接な交流を持ち、ネットワーク作りや勉強会などの機会を持てるように準備中である。	○	スタッフ同士の交流や相互訪問、情報交換のできるような機会をつくりたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	月に1度親睦会の場を用意している。日常的にコミュニケーションをはかり、十分配慮されているが、具体的な取り組みはできていない。	○	職場環境をよりよくするための検討が必要である。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スタッフ1人1人の様子をこまめに気にかけているが、向上心につながるような具体的な働きかけはされていない。	○	職場環境の改善を要する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に、施設長、管理者がご本人への面会やご本人のホーム訪問の機会を作り、十分に配慮して行っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談時に、施設長、管理者が十分に配慮して行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居相談時に、施設長、管理者が必要な支援の見極めを行っている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前にホームの見学や体験利用を行ったり、入居後もご家族と相談の上で個人のペースや様子に合わせてホームに馴染んで頂ける様な工夫を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>日常生活の様々な場面で入居者に知識や知恵を教える機会が多く、共に楽しみ、共に支えあう関係が築けている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>受診の対応や、誕生日などの行事への誘いかけ等行い、ご家族様もチームの一員として様々な場面で力添えを頂き、共にご本人を支えていく関係作りに努めている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>これまでの家族関係について理解した上で、自由に面会を行えるよう配慮したり、面会時は一緒にゆっくり過ごせる雰囲気作りをしたり、仲介したりと支援を行っている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>買い物やイベント、散歩など、入居者ができるだけ町内に出かけることで馴染みの関係が途切れないよう配慮している。また、個別にゲートボールの見学等をプランにあげるなど積極的に取り組んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を把握し、孤立しないよう配慮しているが、利用者同士が支えあう場面作りへの支援は不十分である。	○	入居者同士の支えあい、関係作りについて研修を行い、日常の中で支援できるような取り組みが必要である。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特に町内の商店の方々とは頻りに交流があり、ホームへのボランティア訪問なども実現している。又、亡くなった入居者様のご家族が訪問して下さることもあり、交流は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望、意向の把握に努め、困難な場合でもカンファレンス等で検討し、本人本位の対応を目指して努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にケアマネージャーが対応している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメント、カンファレンスにてスタッフ全員で情報を把握、共有できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の思いを汲み取りながら、毎月のケアカンファレンスにてスタッフ全員での検討、作成を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要時にはモニタリング、アセスメントを行い、カンファレンスの場で随時検討されている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子をこまめに記録し、管理者が確認を行い、情報の共有やケアプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	必要に応じて柔軟に対応している。これまでに、町外の受診の対応や、入院時の付き添いなどを臨機応変に行った。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	これまでにそのような事例は無かったが、必要時には地域の民生委員、消防等との協力できるよう体制は整備されている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	これまでにそのような事例は無かった。	○	柔軟に対応できるよう取り組んで行きたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	これまでにそのような事例は無かった。	○	地域包括センターとの関係作り、必要時には協力できるような体制作りが必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>できる限り、入居前からのかかりつけ医への受診を継続することで入居者を良く知る医療スタッフに健康についての相談をすることができている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要に応じて専門医を受診している入居者様があり、親身に相談にのっていただいている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>ホームの隣に同法人の診療所があり、相談することができるが、他の医療機関へ受診している入居者については不十分な感がある。</p>	○	<p>医療との連携、体制作りを検討する必要がある。</p>
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>必要に応じて対応している。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>必要に応じてご本人、ご家族と十分な話し合いを行い、カンファレンスでスタッフ全員での方針の共有を行っている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期ケアについて検討する機会があったが、ホームの方針の明確化やマニュアル作りには至らず、かかりつけ医との連携も不十分な感がある。</p>	○	<p>終末期ケアについて研修等で理解を深め、より具体的なホームの方針、対応について検討する必要がある。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでにホームから他への住み替えのケースは無い。</p>	<p>○</p>	<p>必要時には十分に配慮したい。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>十分に配慮されている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>十分に配慮し、本人本位の生活が実現できるよう努力している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ある程度のスタッフの動き方は決められているが、個々人のペースや希望を優先し臨機応変に対応できるようスタッフ全員で取り組んでいる。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容、美容室はご本人のペースに合わせてできる限り入居前から利用していた馴染みのお店に行けるよう支援している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々人の持つ力に合わせて、買い物や献立作り、調理、後片付けなどに参加していただくことで食べることを楽しみにつなげている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人、ご家族と量や頻度、対応方法などを検討の上、楽しみを継続できるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	必要に応じて個別に排泄パターンを把握し、個々に合わせた対応を十分に検討し対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には24時間いつでも対応できる体制である。ご本人からの訴えが無いことが多く、毎日午後から個人の希望、ペースに合わせて声をかけ、希望によっては時間を変更する等の対応も行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間は個人やその日の状況に合わせてさり気なく支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出行事や日常の中で散歩、買い物などtのしみの場を提供しているが、入居者が自分で楽しみや気晴らしを見つけて行っている感もあり、十分な支援とはいえない。	○	アセスメントを行うことで個々の持つ力を見極め、生活の中でそれを活かすことができるよう検討が必要である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談の上、個別にお金を持つこと、使うことができ、買い物の支援等希望に合わせて対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望があれば、その都度対応できている。又、個々に合わせた外出の誘いかけや対応の工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に2、3回の外出行事を計画し、入居者の希望や好みに合わせた外出支援を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望にあわせて対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	24時間いつでも訪問し、希望があれば一緒に食事をしたり、宿泊することもできるよう対応している。居心地良くゆっくと過ごしていただける雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はされていない。話し合いを重ね、カンファレンスにて個別の対応を検討することで身体拘束をしないケアにチームで取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施錠についての話し合いは全体会議の場で十分にされており、施錠もされていない。入居者個々人の動きに合わせたケアを検討することで鍵をかけないケアにつなげている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	必要に応じて個別に所在確認表を用意し、所在の確認、把握に努め、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物、火気はスタッフルームでの保管をしているが、必要に応じて個々に合わせた物品の使用を援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の対応について内部研修で学ぶ機会を持ち、個人に合わせて事故のないように十分配慮されている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	内部研修にて学ぶ機会を持ったり、町や消防の救急訓練への参加を推奨しているが、定期的に全員で訓練を行う機会は用意されていない。	○	今後、定期的な訓練の場を確保し、技術の向上に努める必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署と連携し、避難訓練を行っているが、災害時の対応に関する取り組みは不十分である。	○	災害時の対応についてマニュアル整備や、十分な話し合いの場が必要である。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	必要に応じてご家族と話し合いを行いながら対応について一緒に考えていこう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常的に入居者1人1人の状態を観察、把握し、記録や申し送りで情報の共有に努めている。速やかに管理者へ報告することで迅速な対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診、処方時に内服薬の理解をし、症状の把握に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々に合わせて排便の確認を行い、状態の把握に努めているが、予防や対応の為の具体的な対策は不十分である。	○	予防、対応の具体的な取り組みについて見当する場を持ちたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個人に合わせた対応を検討しているが、対応が不十分なことがある。	○	口腔ケアの研修を行い、意識を高めたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量は記録に残し、必要に応じて個別に詳しい表を使用し、状態の把握に努めている。不足時は個々に合わせた対応を検討しケアに当たっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ、アレルギー等のない入居者は全員インフルエンザ予防接種を受けている。感染症についてのある程度の取り決めはされており、予防に努めているが、具体的なマニュアル等の準備はされていない。	○	感染症予防のアンニュアル整備を行う必要がある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の購入はこまめに行い、食品の管理は徹底されている。調理用具、台所の消毒は毎日行い、冷蔵庫も週に1度清掃、消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りにプランターを置き、花を飾ることで親しみやすい雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	広々としたホールにソファや観葉植物を置くことで居心地のよい空間作りを行っている。季節感の出るように飾りや、旬の花を飾るなど工夫を凝らしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール内に落ち着いて過ごすことができるよう家具を配置することでいくつかの居場所を用意し、ユニットを離れてラウンジでもソファや椅子、マッサージチェアを配置することで思い思いに過ごすことができるように配慮している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や寝具、仏壇など、個人の慣れ親しんだ物品を持ち込んでいただけるようご家族と相談し、使いやすく、過ごしやすいように工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	夏は室温が高かったり、冬は加湿器を使用しても湿度が低いなど適度に保たれないことがある。	○	対応について検討を要する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手すりの位置を工夫したり、危険の無いよう家具の配置に考慮する等の対応を行っている。広々とした建物内を自由に動くことができるつくりになっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	カンファレンスにて個々の持つ力について話し合うことで対応を行っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭に芝生、家庭菜園、花壇、植木、物干しを用意し、希望時は自由に行き来し、活動できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>② 入居者の思いや希望を引き出すための工夫をしていきたい</p>
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>② 会話や笑顔も多くとても明るい雰囲気である。スタッフの都合によってゆっくりと過ごす時間が取れないこともあり、改善を要する。</p>
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 個々のペースに合わせることを第1に、スタッフの動きを工夫している。</p>
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 笑顔が多く、満足されている様子が伺える。</p>
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 希望があればいつでも対応できるようにしている。</p>
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 不安の訴えはなく、現対応で安心されているようである。</p>
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 柔軟かつ臨機応変な対応でその時々々の状態、希望に対応できるよう配慮している。</p>
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>① いつでも相談していただけるよう配慮し、都度対応を行っている。ご家族の希望、思いをどのように引き出し、ケアにつなげてくか考えていきたい。</p>
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>② 運営推進会議は現在準備中であり、開催されていない。</p>

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目			
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	④ 運営推進会議は現在準備中であり、開催されていない。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	① スタッフの個性を活かした対応ができています。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	① 日常の会話の中から、満足されている様子がうかがえる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	① ホームに入居してから明るくなった、とても落ち着いたとの声があり、満足につながっていると思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

スタッフ全員で意識やケアを統一できるよう、毎月ユニット会議、ケアカンファレンスに全員が参加できるようなシフトを組んでいる。親睦を深める場にもなり、よいケアにつながっている。入居者1人1人、その時々々の状況や希望に合わせて、柔軟に対応することができている。入居者を中心にしたケアの実践について日々研修を重ね、取り組んでいる。